

2023年度 小委員会活動成果報告

(2024年1月19日作成)

| | | |
|---------------------------|---|---|
| 小委員会名 | 拡張排水システム普及小委員会 | 主査名：古賀 誉章 就任年月：2023年4月 |
| 所属本委員会 (所属運営委員会) | 環境工学委員会 (建築設備運営委員会) | 委員長名：大岡 龍三 主査名：田中 英紀 |
| 設置期間 | 2023年4月 ～ 2025年3月 | |
| 設置目的 各年度活動計画 (箇条書き) | <p>満流を許容・利用するなどして、従来型の排水システムを補完する新しい排水の方式を「拡張排水システム」と呼ぶ。具体的には、機械排水システム（小型圧送・真空）、サイホン排水システム（雨水・雑排水）、非水封式トラップ（自封トラップ）などがある。これらは、従来型の排水システムの体系から逸脱するため、その認知と普及が課題である。そこで、建築学会として技術的な体系化や基準化としてまとめる『日本建築学会環境基準 AIJES-B0003 機械・サイホン排水システム設計ガイドライン』の改定を通して、その普及拡大を支援していく。</p> <p>2023年度：AIJES 改定作業、 拡張排水システムの新しい技術・適用事例等収集</p> <p>2024年度：AIJES 改定査読、ホームページの更新</p> | |
| 委員構成 (委員名(所属)) | <p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：古賀誉章（宇都宮大学） 幹事：光永威彦（明治大学）、臼井政夫（加倉工業） 委員：佐々木敏（ブリヂストン）、坂上恭助（明治大学名誉教授）、小寺定典（加倉工業）、高津靖夫（芝工業）、谷信幸（アルモ設計）、前川一郎（戸田建設）、飯塚宏（日建コンストラクション・マネジメント）、真山淳哉（タキロンシーアイ）、榎木剛（丸一）、大道康之（積水化学工業）、岡内繁和（明治大学）、小島邦晴（共立エステート）</p> | |
| 設置WG (WG名：目的) | 拡張排水システムの展開WG：適用・普及の展開策、新技術の開発・発掘、次世代の人材育成 | |
| 2023年度予算 | 120,000 円 | ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s36/ |

| 項 目 | 自己評価 |
|---|---|
| 委員会開催数 | 7回（年度内計画を含む） |
| 刊行物 (シンポジウム資料等は除く) | |
| 講習会 | |
| 催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画 | |
| 大会研究集会 | |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等 | |
| 目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係) | <ol style="list-style-type: none"> AIJES-B0003 の性能規定化について議論・改定案の作成（100%） 拡張排水システムの新しい技術・適用事例等の収集（80%） |
| 委員会活動の問題点・課題 | なし |

*中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2023年度 小委員会活動 自己評価 (○中間年度評価・最終年度評価)

| 総合評価 (4段階評価) | A |
|---------------------------------|--|
| 総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等) | <p>本小委員会は「拡張排水システム」について、学会として体系や基準を示すなどにより、その普及拡大を支援することを目的として、以下の活動をした。</p> <ol style="list-style-type: none">1. AIJES-B0003 の性能規定化にむけて意見交換をした上で、機械排水システム（小型圧送・真空）、サイホン排水システム（雨水・雑排水）、非水封式トラップ（自封トラップ）それぞれの改定案の作成し、内部査読を実施した。2. 拡張排水システムの日本では新しい技術である、真空便器を用いた真空排水システムについて、その用途並びに事例を広く収集した。 |

●総合評価は4段階（A>B>C>D）にて、自己評価すること。

●中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。

A評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度

B評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度

C評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度

D評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度

●小委員会の活動に対し、第三者的评价・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。

●提出対象年：設置期間4年の場合は、2年目「中間年度評価」、4年目「最終年度評価」（1年目・3年目不要）

設置期間3年の場合は、2年目「中間年度評価」、3年目「最終年度評価」（1年目不要）

設置期間2年の場合は、1年目「中間年度評価」、2年目「最終年度評価」

設置期間1年の場合は、1年目「最終年度評価」